

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	三重県津市戸木町		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Ijigoyosvcd=2470600368-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームひまわりは『和顔愛語』を理念とし、笑顔と優しい言葉がけで利用者の心に寄り添い、穏やかに過ごせるよう支援しています。職員は認知症高齢者の理解を深め、資質向上に取り組んでいます。利用者は自然に囲まれた環境の中でゆっくりと気持ちよく過ごしていただいております。今年度はコロナ禍で以前のような外出支援ができませんでしたが、今できる日々の楽しみを見つけて利用者の笑顔に結び付けていくべく取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設19年を経た事業所は、住宅団地の外れの緑豊かな木立の中にあり、4階建て3ユニットの建物で、短期入所事業所が並列に建っている。デイサービスセンターも隣接し、互いに協力し合ってスケールメリットを大にし、民間会社が経営する福祉事業として地域に根付いている。その証として、コロナ禍に於いても定期的に毎回、地域の自治会集会所にて、自治会役員多数の出席のもと運営推進会議を開会してきた。職員は、利用者のこれまでと変わらない暮らし方を支援するため、一人ひとりの思いや暮らし方に合わせたケアを心掛けている。職員同士も互いに協力し合ってチームワーク良く、優しい思いやりが利用者のケアに活かされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和顔愛語の理念を職員で共有し、利用者 に寄り添うケアを目指し実践している。	開設当初に管理者がグループ全体の共通 理念として作成し、利用者を敬愛し、やさしい言葉、和やかな笑顔でケアを志す 基本として事業所の玄関やフロアに掲示 している。管理者は、理念を会議等の機 会ごとに職員に伝え、職員は日々の実践 上で理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方も参加していた夏祭りもコロナ 禍で数年中止しており十分な交流ができて いませんが、災害時には協力体制をお 願ひしている。	民家から離れて事業所が建っているが、 周辺は自然豊かな環境で散歩中の住民と 利用者が会って挨拶を交わすことがあ る。コロナ前に毎年開会していた事業所 の夏祭りに地域住民が協力していただ いた実績があり、協力関係が築かれてい ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々 に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ当施設が地域の方 のお役に立てるよう発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	グループホームの運営や介護保険制度、 災害時の協力について意見交換をしてい る。	コロナ禍に於いても2か月毎に開会し、出 席を依頼している地元自治会役員に合わ せ、場所は自治会集会所、日時は日曜の 夜としている。包括支援センター職員の 出席があるが、今後は市職員や家族にも 案内し、広範な意見をサービス向上に活 かしたいと管理者は考慮中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くように取り 組んでいる	高齢福祉課、介護保険課、援護課にいろ いろな課題の相談に応じてもらってい る。	今年1月に事業所内で利用者と職員がコロ ナ感染症にかかり、その際に管理者は保 健所と市介護保険課へ連日報告をし、指 示や助言を得て対応をした。日頃は、介 護支援専門員が、久居総合支所福祉課・ 本庁介護保険課・援護課等の窓口に出向 いて、利用者の状況報告と対応策を相談 し、助言や情報を得て連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、取り組んでいる。	3か月毎に身体拘束廃止委員会を開き、毎月のフロア会議で全職員に内容を伝達している。指針を基に身体拘束に係る言動を職員は心得、新聞等で関連する記事を管理者はコピーして掲示して職員に啓発したり、研修会で学習をし、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人について実際に活用しており、職員も制度については理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に家族に利用契約書、重要事項説明書により説明をしている。利用されてからも疑問点について説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	直接、話を聞いたり電話連絡時に話を伺うなど気軽に話し合いが出来るようにしている。得た情報をもとに職員間で相談をしサービスの向上に努めている。	家族が、利用者の面会等で来所した際や、電話で事業所に対する意見や要望を伺うように務めている。コロナ禍で面会制限中は家族と十分に話し合えなかったが、今後は家族と話し合う機会を多く持つように心がける。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、月1回のフロア会議で意見交換を行い反映している。	職員は、毎日の申し送りや月1回のフロア会議の際に意見を述べている。管理者は、職員同士の和を大切に、話しやすい職場を目指しているため、気づいた事等は日常会話の中で職員より聴いている。事業主は従業員との年2回の面談を実施しており、待遇に関する要望等も職員は伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者からは定期的に職員の個人面談をするように指示が出ているため取り組んでおり、個人の考えがよく伝わってくる。代表者は面談表に目を通してしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からは資格を取ることに支援（経費を全額負担）をしてもらっている。また、日常の仕事を通じてのレベルアップ（オンザジョブトレーニング）にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで交流がなかなか難しいですが、定期的に電話で情報交換をするように指示が出ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のお話をよくお聴きし支援に結びつけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とコミュニケーションを取り希望などを聴くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の状況を把握し適切に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取り、信頼関係が保てるよう努めている。支援が一方向的にならないよう気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は本人を支援するうえで大切であり、良い関係が保たれるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は大切であるので、交流ができるよう取り組んでいきたい。	利用者にとって馴染みの人は家族であることが多く、面会機会を多く持ち家族と交流できるように図らっている。ホームへ入居後も従来の主治医に掛かっている利用者が半数ほどあり、家族の協力を得て通院が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士が良い関係を保っていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談事があれば支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から意向を把握し、職員間で共有し、相談しながら取り組んでいる。	本人の思いや意思を伺い、尊重する表れとして着用したい衣服を自分で選んでもらっている。一人一人の食べ物の嗜好や折り紙等諸活動に取り組む際に得意面や苦手面等を職員は把握して、申し送りで伝達し全職員へ共有を図り、各自の思いに寄り添った支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を把握し、職員間で相談しながら取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者と接し、心身の状態について確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状について確認をしている。家族とは必要に応じて話し合いをしています。	介護支援専門員が作成し、本人・家族に同意を得た介護計画に基づいて職員はケアを実践し、毎月のフロア会議に於いて全職員でモニタリングを行い、それを基に3か月毎に介護支援専門員が介護計画を見直し、チームで計画を作成している。その際に家族の意向や主治医より得た情報等を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援した事について記録を残すことは振り返りやどうなったかを確認するために必要であり、それを今後の支援に活かすよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じた対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集し必要時に活用が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医とは入居されても引き続き適切な医療が受けられるよう関係を持ってもらうようにしている。	入居時に本人や家族と話し合っかかりつけ医を決めている。従来のかかりつけ医に家族の協力を得て掛かれるように支援し、現在半数の利用者が従来の掛かりつけ医を継続している。協力医による訪問診療は、月1回程度である。歯科医師による訪問診療を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師と連携し対応している。看護師の採用をしたいと思っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のケースワーカーとその都度連絡を取っています。家族とも情報交換しながら入退院の支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	立ち上げ当初より看取りは行っていない。重度化したときは家族や医師に相談し、利用者にとって適切な施設や病院に移ってもらっている。	入居時に、重度化や終末期の対応について本人・家族に説明をし、事業所に於いて看取りケアは行っていないため、医師と相談して適切な病院や施設への入院・入所に関する相談支援に応じることを伝えている。今年も3名の利用者が特養ホームへ転所し相談支援に応じた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変、事故発生時には状況を確認し主治医に連絡、又は救急要請をするなど対応にあたっている。AEDの使い方、急変時の対応を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や救援依頼、公的機関、家族への連絡など職員で確認を取っている。地域の方にも協力の依頼を行っている。	消防署立会いによる避難訓練を年2回実施し、昨年11月に通報と駐車場への避難訓練を行い、本年5月に消火器の使い方を訓練した。夜間想定訓練も必要であるが未実施で、夜勤者3名で対応をし、各階の歩行困難な利用者の避難誘導は困難である。隣接するデイサービス施設への一時避難も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や気持ちを把握し適切に言葉かけを行うよう取り組んでいる。	理念の「和顔愛語」を実践し、職員全員が言葉使いを丁寧にし、話す時には相手の目線を合わせ、利用者に合った話しかけを行うように心掛けている。プライバシーの確保は、特にトイレへ誘う声掛けの仕方に注意をしている。トイレは自室内にあり、排泄や着換え介助の際には必ずドアを閉めて行う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気持ちを表現してもらえるような声掛けをするように職員間で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で何事も決めず、利用者様の生活リズムを崩すことのないよう気を付けている。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などの物品については家族様に持ってきていただくように連絡を取ります。必要時には職員が購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを伝えたり、食事前には嚥下体操、食事中は音楽を流したりしている。配膳、下膳ができる方にはしてもらっている。	日常の食事は、業者に献立と食材の調達を委託し、調理は職員が交代で行っている。コロナ禍の感染防止上、利用者が食事の支度等に参加することは中止していたが、現在テーブル拭きを手伝う利用者がある。誕生会には本人の希望を取り入れたオリジナル調理をし、焼肉や散し寿司を皆で作って会食して楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理をするときに個々に応じた食べやすい形態や塩分を控えめに提供している。呑み込みの悪い方にはトロミをつけて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を清潔にすることは肺炎予防になるので清潔にしてもらうよう取り組んでいる。入れ歯調整など訪問歯科に来てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレがあるので、声かけ誘導しトイレでできるように取り組んでいる。失禁がある方はリハパン、パットなどを使用してもらい自立につながるよう取り組んでいる。	排泄が自立をしている利用者があるが、大半は昼夜ともリハビリパンツを着用し、職員が利用者の排泄パターンに応じて声掛けをしてトイレへ誘い、排泄支援を行っている。夜間はセンサーマットや光センサーで職員がキャッチして訪室し、排泄介助をしている利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事や水分補給を十分に摂ってもらっている。便秘の方は主治医、かかりつけ医に相談し便秘薬をもらっている。毎日排便チェックを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週3回行っています。入浴が嫌いな方もいるので、曜日や時間の希望に合わせてながら入浴をしてもらうよう対応している。	利用者は週3回入浴機会があり、月水金または火木土であるが、入浴日に入れなくても翌日に入ることが出来る。気分で入浴を拒む利用者には対応者を交代したり翌日に入浴している。浴槽は深いが手すりに捕まり入ることができる。身体レベルが低下し、機械浴がある他の施設へ転所した利用者がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるよう、居室の照明や室温調整に配慮しています。寝られないときはフロアに出てきてもらい話し相手となり見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	他の方と薬の飲み間違いのないように、飲む前に名前と日にちを声を出して確認している。手に渡してもこぼされる方がいるため完全に飲み終えるまで確認をしている。(服薬確認チェック表使用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクレーション、誕生会を行い生活に楽しみが持てるよう取り組んでいる。個人的には新聞をみたり、パズル、ゲームをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で施設としての花見、外食行事などはできていない。家族が受診時に外食や墓参りにいかれることもある。敷地内の桜の花見は実施できた。	コロナ禍で十分な外出支援が出来ず、事業所の周辺を散歩する程度であった。現在車いすの利用者が2階は1名、3階は3名、4階は2名程居て、ユニット単位でも全員そろって外出するのは困難である。	本年5月よりコロナ感染対策が緩和された中で、今後は、これまで制限されていた外出支援の機会を増し、利用者が戸外に出て五感に刺激的に和やかに過ごせるように支援することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持してもらってないですが、必要に応じて支援している。自分の年金の受給日はいつですかと聞かれたりするため、お金の話はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望があれば対応しており、リモート面会も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるように整理整頓、掃除、音や光、湿度、温度に時間を決めて気をつけている。	リビングのテーブル配置やレイアウトは、ユニットの利用者に合わせて工夫をして配置しているため各階で異なっているが、明るく、音楽が流れ、壁面に利用者と職員が共同制作をした作品が多数飾られて和やかである。カウンター式のキッチンで調理中の職員と会話ができアットホームな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の関係性を重視し座る場所は決めてある。また状況に応じて変わっていただくこともありますが居心地の良いよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用されていたものを持ち込んでもらっている。家族も協力をしてきている。	室内は床暖房が施工され、棚等は木製で暖かい雰囲気である。各室内にトイレと洗面所が設置され、居住者が衛生設備を専用に使用できる安心感がある。清掃は平日は業者が、休日は職員が行って衛生面への配慮が行き届いている。自宅から馴染みのテレビや時計を持ち込んで居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、ホールは段差もなく安全な環境になっている。移動時、下肢筋力低下がある方はシルバーカー、車椅子、杖を使用してもらい安全を取っている。		